

2016 年度聖書の集い（第 7 回）

2016 年 12 月 7 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 91 番 「荒野の果てに」

2、お祈り

3、聖書 「ヨハネによる福音書 3：16～21（新約聖書 167 ページ）」

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

「⑦神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」

12 月に入りました。町にはクリスマスソングがあふれ、また子どもたちはクリスマスページの練習を頑張っていると思います。

今日はクリスマスについてお話をしていきたいと思います。クリスマスっていったい何の日でしょうか。

① クリスマスは誕生日

「クリスマスってねえ、誕生日なんだよ」って言うと、「サンタさんの？」と聞く子がいます。確かに日本では、クリスマスというとサンタクロースやプレゼントを思い浮かべるかもしれませんが。

12 月 25 日、それはイエス・キリストという人が誕生されたことを記念する日です。2000 年以上前に、ユダヤのベツレヘムという場所で、イエス様は生まれました。そのキリストとミサ（礼拝・祭儀）を続けて「クリスマス」という言葉になりました。

つまりクリスマスとは、イエス・キリストという 2000 年も前の人の誕生をお祝いするということになります。知っている人や家族ならばともかく、どうして会ったこともない人の誕生日を、ケーキまで用意してお祝いするのでしょうか。



② 神さまが与えた独り子

わたしが小さい頃、近所には空き地がたくさんありました。小学生になると友達と一緒に暗くなるまで遊んだものです。一番よくやっていたのは野球でした。低学年の頃はゴムボールを使っていたのですが、高学年になると軟球やグローブ、金属バットを使い出すようになりました。

でも時々、目の覚めるような当たりを打ってしまい、人の家の窓ガラスをわってしまうことがありました。子どもたちはよく知っていました。どの家の人は優しくて、どこの人は怖いのかを。優しい家の人のところには、すぐに謝りに行きました。けれども怖いおじさんの家のガラスを割ってしまった時は、とりあえず逃げました。

でもそのままにしておくわけにもいかず、母親に連れられて謝りにいくわけです。母親は怒りながらも盾になってくれます。それは子どものことが大切だからです。

イエス様がわたしたちのところに来たこと。それはわたしたちと神さまとの間に入って、正しい関係に戻すためです。またわたしたちと共に歩み、悲しみも、そして苦しみをも一緒に背負うためです。

③ 世を愛される神さま

なぜ神さまはそのようなことをされたのか。それはわたしたち一人一人が大切だからです。かけがえのない存在だからです。

神さまはわたしたちを決して見捨てはされません。どんなにどうしようもない存在だったとしても、いい人になり切れなかったとしても。真っ黒に汚れたわたしたちをそのまま受け止め、そして一緒に歩いてくださる方、それがイエス様です。その方の誕生をお祝いするのがクリスマスなのです。

子どもたちのページントを見ながら、どうぞ感じてください。みなさんの心の中、ふかふかの飼葉おけの中に、温かい何かが生まれるはずです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から

子どもクリスマスは 23 日 14 時～17 時です